

# 日本人の技と技術、 伝統文化に根ざした地方創生

千葉大学大学院工学研究科都市環境システムコース准教授  
一般社団法人 光風座 代表理事

佐藤建吉

「技(わざ)」は、所作に無駄がなく配慮が行き届いていることである。

未熟で下手な所作を、「技」とは言わない。こ

も、「地方創生」の取り組み

も、政策の送り手と、地方での受け手の協働でなければ実現しない。同様

に、「再生可能エネルギー」を協働でなければならぬが、これは政策のウ

イイトが大きい。私たちの暮らしや関心は、安全安心で快適であること、そして経済的に、持続可能な社会を志向している。わが国に根

付いている「もったいない」の精神は、経済成長の結果、忘れ去られていたが、ワンガリ・マータイ氏(1940年〜2011年、ケニヤ人、ノーベル平和賞受賞)の活動で、再び語られるようになった。

この「もったいない」の精神は、資源やエネルギーを節約し有効利用する日本人の得意な行動様式であった。それは、Recycle(リサイクル)、Reuse(リユース、再利用)、Reduce(リデュース、減量化)の3Rとともに、さらに2つのR、すなわちRepair(リペア、修理)・

「技」は、過程であるので、その中にはいくつかの通過点がある。それは、始点から終点までの連続した流れといえる。その通過点を、著者は「技」と呼ぶが、「技」は、「技術」の基本要素である。

「技」とは言わない。これも、「地方創生」の取り組み方での受け手の協働でなければ実現しない。同様に、「再生可能エネルギー」を協働でなければならぬが、これは政策のウイイトが大きい。

「技術」には、いくつかの通過点がある。それは、始点から終点までの連続した流れといえる。その通過点を、筆者は「技」と呼ぶが、「技」は、「技術」の基本要素である。つまり、付図のように、「技」の連鎖が「技術」として体系づけられる。成功した「技」の連鎖が、優れた適応力、すなわち「技術」を実現する。こうして、技術は、一コマではなく、いくつかの過程からなる成功のつながりであり、それは、全体として好結果を生み出す連鎖であると言える。

現代の日本社会においても、国際的な状況に影響されるのではなく、日本の伝統や文化に根ざし、新たな目的や目標に向かうことが重要であろう。日本人の技と技術は、気候風土や風習、更には気質など自然と人間の特質に根ざして地域で独特な伝統文化を作り上げてきた。地域分散型エネルギーである自然エネルギー利用においても、持続的な地域をつくるために、地域風土特性を活かした(ヴァナキュラリズム)の視点が大切であり、これを地方創生の要

「経験」は、「科学の力を借りた学習や、自らの工夫や創意に基づくもので、豊かな経験と深い理解が大切である。「対象行動」は、「目的を意識した行動が技術の前提にあること」を示している。「優れた適応力」は、「目的行動に対応した所作であるが、それが「優れている」ことの必然を強調している。無駄な、あるいは不合理な所作は、優れた適応ではなく、技や技術とはならぬ。

2015年4月、筆者らは、千葉県大多喜町の廃校になった小学校を利用して、北欧がルーツとされるフューチャーセンタをオープンした。それには、エコを冠して「エコ・フューチャーセンタ」と名づけ、自然エネルギー利用を進める研究開発事業をスタートした。同時に、廃校利用の地域活性化のモデルを構築する目標を掲げている。現代の科学技術関連社会のなかでは、技術を無視することはできない。前述の「技術」の定義では、経験・対象行動・優れた適応力の3つを、重要なキーワードとしてい

る。「経験」は、「科学の力を借りた学習や、自らの工夫や創意に基づくもので、豊かな経験と深い理解が大切である。「対象行動」は、「目的を意識した行動が技術の前提にあること」を示している。「優れた適応力」は、「目的行動に対応した所作であるが、それが「優れている」ことの必然を強調している。無駄な、あるいは不合理な所作は、優れた適応ではなく、技や技術とはならぬ。

【成功した(上手な)技の連鎖】



技術は、過程であるので、その中にはいくつかの通過点がある。それは、始点から終点までの連続した流れといえる。その通過点を、著者は「技」と呼ぶが、「技」は、「技術」の基本要素である。

を落とし、動きを与え、誰もが感動する畫面をつくり出す技の連鎖が、書道という技術である。同様に、鑿(ノミ)の刃先と金槌の一撃の動き、その連鎖が彫像をつくる。また、一瞬の現象を切り取るデジタルカメラ撮影においても、カメラの作り手と使い手がマッチしたときに、撮影技術となるであろう。こうして、上手と成功の技の連鎖が、技術と呼べるものである。

紙に、黒い墨を含んだ筆